



関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々に環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内票書と ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先…郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部)

第27回 関西ワークショップのお知らせ

(「日本科学教育学会 平成5年度 第1回研究会」に関西支部が共催)

日 時：7月10日(土) 午後1時30分～5時

会 場：大阪教育大学柏原キャンパス 共通講義棟 A215教室

主 題：学校における環境教育・STS教育など総合分野の実践とその課題

参加費：1000円(レジメ集「研究会報告」が不要の場合は参加費=500円)

※別紙の交通案内図・柏原キャンパスの地図をご参照ください

プログラム

〔第1部〕 研究発表(1:30～3:30) 総合司会：野上智行(神戸大学)

1. 小学校国語科における土をテーマにした環境学習 植田善太郎(泉大津市立条東小学校)

2. 中学校における環境教育 秋吉博之(兵庫教育大学附属中学校)

3. 新時代に対応する国民的科学教育への模索～高校教育現場への「STS 地球環境学」の導入～ 藤岡達也(大阪府立勝山高校)

4. STS教育の視点に立った新カリキュラム物理Ⅱの課題研究の試み 川村康文(京都教育大学附属高等学校/京都教育大学大学院)

5. 科学・技術と環境に関する高専生のイメージ(仮題) 石川聡子(大阪大学人間科学研究科) 石川寿敏(大阪府立工業高等専門学校)

6. 自分の意味を発信する学習の可能性 鈴木真理子(大阪大学大学院人間科学研究科)

〔第2部〕 総合討論(3:45～5:00) コーディネーター：鈴木善次(大阪教育大学)

テーマについて参加者全体で、意見・提案などの討論を行います

第二回日本環境教育学会関西支部シンポジウム概要報告

5月15日(土)2時甲南大学10号館1021講義室。正面には「ゴミ問題とリサイクルを考える～環境教育の視点から」のテーマが浮かぶ。ほぼ満席に近い186名の参加を得てシンポジウムは始まった。以下、代表世話人赤尾氏の挨拶にはじまり、甲南大学の谷口シンポジウム実行委員長の閉会の言葉までを振り返って報告する。

＝プログラム＝

第一部 基調講演 榎田 劭氏(京都精華大学)

第二部 パネルディスカッション

コーディネーター 鈴木 善次氏(大阪教育大学)

パネリスト 松林 昭(京都光華小)、岩井 順一郎(豊中市立庄内公民館)、
中院 彰子(ごみを考える会)、今井 左金吾(神戸市環境
健康研究所)の各氏

榎田氏は工学部で教鞭を執られていた「技術畑」の方である。ところが、「技術」の限界を察知され、「使い捨て時代を考える会」を設立。真向から「技術」に対して「否定的」ともとれる発言をされる。これは、氏の著書「破壊にいたる工業的暮らし」「工業社会の崩壊」～「農の再生・人の再生」という流れからも察せられよう。

「ゴミは現代文明の病理である」との指摘は誠に絶妙である。即ち、ゴミ問題を考えることは社会の健康状態を知ることにつながるからである。そういう意味でゴミが出てきた時代を特定することが環境問題を考える上からも重要となろう。

「戦前戦後の日本にゴミ問題はあったか」にも関わってくるが、買い物袋を持って行き新聞紙に包んでもらう、調理屑の出ないよう工夫し、最終的に生ゴミは畑に埋める。新聞紙は燃焼させる。筆筒は頑丈で親から子へと引き継がれる。家も自転車も頑丈であった。着物は洗い張りをして仕立て直していた。そのような時代だった。

ところが現代は「使い捨ては美德」「消費者は王様」という「流れ」に乗せられてしまっている。即ち、敗戦から学んだことが「禁欲」～「物欲」への脱皮であったこと。この流れに乗って現代の教育がなされてきたと考えて見ると、そして被教育者が世論を形成して行ったと考えて見ると、一体原因は何に在るのだろうか。

経済の原理が生命の原理を呑み込んでしまったとも言えるであろう。ここにして、CMの果たしたマインドコントロール機能の重大さに気付かされるのである。私達はこうして、「生活の知恵」すら質的転換を迫られた——と言うよりも必要とされなくなったといってもいい——時代を完成させつつある。所謂、機械文明である。

従って、環境教育の現代に果たすべき役割は誠に多大であると言える。生命軽視、人間疎外の世界観を転換し、生存の基礎たる生命の原理にたちかえることこそ私達が目指す方向ではなかろうか。このことは、パネルディスカッションの中でも「心の育成の大切さ」(松林氏)、「ゴミに取り組む中での自覚の成長」(中院氏)、「行政が取り組みに一層工夫することの意義」(岩井氏)、「市民への啓発の大切さ」(今井氏)など皆さんが強調しておられたことである。

(文責 福島 古)



ECOLO人



ごみ問題市民会議 森 里子

NGO職員として働き始めて4年。「ECOLO人」になりたいと思いつつなかなか悟りの境地には到れないが、私自身が一番こだわっているのは「ごみ」である。私たちが生活するかぎり「ごみ」がでる。町に住んでいると、食べ物を買ったらもれなくごみがついてくる。スーパーへ行けばトレイにのった魚、ラップに包まれた野菜、最後にビニールの手提げ袋に入れてくれる。あーと溜息をつきつつ店を出るものだ。自称ごみきちがいはそれがストレスになってしまうのだが、そのうちに包装の少ないものを選ぶことを覚えた。同じ食品でも店を選べばごみの量も違う。キュウリをざるひと盛り100円で売っているところもあれば、トレイにのせて売っている高級品店も実在するのだ！

今年1月に、環境にいい買い物をする人＝みどりの消費者になりたい人のためのノウハウ+お店の情報を載せたかいものガイドをごみ問題市民会議というグループが発行した。このガイドには包装状況の他、びん・缶などをリサイクルしているか、石けん製品や再生紙のトイレットペーパーをおいているか、お店で環境問題に取り組んでいるかなど、京都市内206店のスーパー・京都生協を対象にボランティアが調査しまとめたもの。消費者のためのガイドだが、お店にもこんなふうになれば環境にいい経営が出来るんだよと提案している。社会の流れも少しずつ変わってきている。今回発行したのは第2号だが、1号作成のため調査に行ったときよりもお店の人が比較的親切に対応して下さった。小売業の人もメーカーの人も、同じ人間なんだから環境問題はもう無視できない、と思う。消費者も「安い、近い、テレビで見た」だけでお店や商品を選ぶのではなく選ぶ目安の一つに「環境」という視点を加えていただきたいと願っている。毎日の小さな心掛けでも多くの人が行動すれば大きな流れになる。

しかし正直なところ、私のお気に入りには市場や専門店。卵を買うのには肉屋へ行けばキャンプ用品の卵ケースが大活躍。おまけに1個ずつでも買えるので一人暮らしでも買い過ぎて腐らしごみにしなくていい。豆腐屋さんへはタッパーを持っていったら歓迎してくれる。というわけで、市場・コンビニ・スーパーでかいものをして比較した特集を掲載した。雰囲気抜群だけではなく、包装も少なくお財布の具合も地元の市場の勝ち、ということが実証された。また市内の百貨店へインタビューを行い環境への取り組みをまとめた。京都市内のお店の情報だが、環境にいい買い物のためのアイデアは全国どこでも通用するものだ。…と言うわけでぜひお買い求めください。1冊600円送料240円で、ごみ問題市民会議事務局（電話075-211-7464）まで。

売れ残ってごみになるより皆さんの買い物の友と呼ばれたい「かいものガイド93 この店が環境にいい」-この本の紹介は調査者総勢60名のうちのひとり、もりさとことでした。

子どもの俳句から
子ども達が普段の生活の中でか
らだて感じ取ってくれている“自
然”を言葉に直してくれました。

小学4年生



梅雨晴れやカエルがびよこんと顔出した
梅雨ですよカタツムリたち出ておいで
雨がふる真つ里雲が空おおう
あじさいのむらさき色が並んでる

(M・O) (R・I) (U・O) (K・D)

『通信』のご紹介 - 関西支部に送られてくるニュース -

『都市と自然』 大阪自然環境保全協会 (06-374-3376)

6月号 → 「校内でトンボ池づくり」 吹田市立第五中学校 高島耕一郎
大阪のみどり「公園緑地計画を考える」 大阪自然環境保全協会理事 中山 徹
「里山一斉調査を終えて」 里山委員会 木下陸男

『GEC通信』 GECグローバル環境文化研究所 (06-222-3261)

APR. → 「快適な環境をめざして-自治体の取り組みを考える-」 循環科学研究室代表 山田國廣
(NO.16) 「アクションプランで広範な取り組み-関西電力-」
連載・3R「学校教育と3R, カナダの事例」 奈良産業大学 井上有一(カナダ滞在)

『WWF』環境教育ニュースレター』 世界自然保護基金 (03-3769-1711)

第3号 → 「1993年度第1回環境教育研究会報告」
環境教育実践例(P.T.A活動における環境教育についての抜粋文) 環境科学教育研究会
環境教育研究所 澤田 清

『日本教育新聞』 日本教育新聞社関西支社 (06-341-6111)

『週刊 教育資料』 日本教育新聞社関西支社 (06-341-6111)

347 → 特集「“脱偏差値”の進路指導でシンポ」
連載・私たちの環境教育「地域の環境情報センターとしての学校」 高知大学 遠藤晃賢

『Coppice』 E. E. net (03-3407-4653)

第6号 → 特集・「ツバメが街にやって来た」(カラー23ページ)

連載・道草を食べる「里のアスパラ、クコ」

第7号 → 「糸紡ぎに挑戦!!-ユギ・ファーマーズ・クラブ訪問-

パンフレット『WHALES-クジラと私たち-』 (カラー14ページ)

送付希望の問い合わせ: 世界自然保護基金広報室 (03-3769-1714)

(内容)

WWFからのメッセージ/商業捕鯨の歴史/今、クジラをとりまく環境が危ない/クジラとは?
IWCで管理しているクジラ、全種紹介/WWFの主張/Q&A/サトウクジラの生態調査

上に紹介した、ニュースやパンフレットは事務局にファイルしています。

奈良環境教育研究会の活動 (1992年4月～1993年5月)

奈良環境教育研究会は、学校教育、社会教育を問わず、職業を問わず、できるかぎり多様な人の多様な意見を望んでいます。自由な討論を基本にしています。どなたでも参加自由です。会場費のために、参加者には200円徴収しています。お気軽にご参加下さい。

(場所)	話題提供(講演)者	テーマ
[1992年度]		
4月例会 (橿原公苑会館)	谷口文章 (甲南大学文学部)	「科学的認知と哲学的認識」
5月例会 (橿原公苑会館)	永岡義博 (吉野高校)	「エコエティカ」輪読会 (人類の生息圏で考える環境倫理について)
6月例会 (橿原公苑会館)	浦西勉 (奈良県立民俗博物館)	「民俗学から見た人文科学」
7月例会 (橿原公苑会館)	中道貞子 (奈良女子大学文学部付属中高校)	「総合学習『環境学』の取り組みから」
7月下旬～8月中旬 竜田川、吉野川、河原樋川の水生動物による河川調査を行う		
9月例会 (橿原文化会館)	河合正人 (あやめ池自然博物館)	「昆虫の観察会を通して考えてみたいこと ——昆虫がそこにすむ(いる)条件——」
10月例会 (橿原文化会館)	北谷勲 (生駒南第2小学校)	「人間の生き方と綴り方」
	北村直也 (寝屋川市立神田小学校)	「言葉と環境教育」
(10月～11月)カモシカ調査(約10日間) (十津川村、天川村、上北山村、下北山村)		
11月例会 (橿原公苑会館)	川瀬健一 (斑鳩小学校・東洋思想研究所主幹)	「心と体の健康」

[1993年度]

1月例会 西本久江 「アドベンチャーキャンプの理念と活動」
(榎原公苑会館) (五條青少年センター所長)

2月例会 長田光男 「開発をどうとらえるか——大和川の川
(榎原公苑会館) (桜井女子短期大学) 違いの教材化を通して——」

3月例会 [ミニレポート大会]
(榎原公苑会館)

武村英明(桜ヶ丘小学校) 「生活科を通して」
吉村元照(県立ろう学校) 「環境教育と聴覚障害」
松吉伸泰(生駒南第2小学校) 「自分とのかかわりで、地域社会に生きる
人々の働きや生活をさぐり、追求する学習」
川本方也(三村小学校) 「探検クラブ、理科の学習から」

4月例会 永岡義博(吉野高校) 「高校教育から」
(榎原公苑会館) 藤岡達也(大阪府立勝山高校) 「STS教育と環境教育」

5月例会 千葉佳一(環境カウンセラー) 「ゴミ問題とリサイクルの課題」
(榎原公苑会館)

[今後の予定] (予定変更もありますので、詳細のお問い合わせは、事務局までお願い
いたします)

6月例会 (会場: 榎原公苑会館) 6/25(金)6:00-9:00 話題提供: 人見功(奈良教育大
学付属中学) 「人里における環境教育」

7月例会 (会場: 榎原公苑会館) 7/23(金)2:00-5:00 話題提供: 松田高志(神戸女
学院大学) 「同行教育—教育哲学の視点から—」(仮題)

9月 未定

10月例会 (会場: 榎原公苑会館) 話題提供: 竹山美知代(カウンセラー) 「連句は
心の呼吸法」

[事務局] 詳細のお問い合わせは下記まで。

本庄 眞 ☎639-11 大和郡山市南郡山町382-1

電話・FAX 07435-2-8527 (自宅)

主会場 榎原公苑会館(榎原神宮駅より北に歩いて5分) ☎07442-2-2462

ネット・ワーク

1) 『省資源・省エネルギー 標語・まんがコンクール 93』
作品募集

すてたらあ缶
利用しなあ缶
使わなあ缶

環境 空間 美術
(初年度3年)

標語の部

〈最優秀賞〉

〈コンクールの概要〉

- テーマ ●ものを大切にすること
- 資源リサイクルについて呼びかけるもの
- 家庭における省資源・省エネルギーの実践

●審査員 漫画家 豊中真智子

関西シニアアート代表取締役 越田 英喜
同志社大学教授 野馬 亨

まんがの部

〈最優秀賞〉



堺市 丸谷 綾 (府立東通高2年)
※：環境画/漫画家 豊中真智子
「くすくす「あせれもん」と呼ばれまくっているカラスの数が激減し、死んだカラスの死体らしきものが落ちてくる。」

募集期間 平成5年7月20日(火)まで

大阪府省資源運動推進委員会・大阪府新生活運動連絡協議会
〒540 大阪市中央区大手前7-1-22 224-344-4642

- 2) 『あなたもナチュラリストに』 自然観察入門講座
: 1993年7月3日～9月26日 金曜日(18時30分)、日曜日(10時)
: 会場 朝日カルチャーセンター(教室)、奈良公園、箕面公園他
: 主催 朝日カルチャーセンター TEL06(222)5222

- 3) 『第4回 自然観察インストラクター養成講座』
: 1993年9月8日～94年3月13日
: 会場 北市民教養ルーム(大阪市北区)、枚岡リクリエーションハ
ウス : 主催 (社)大阪自然環境保全協会 TEL06(374)3376



環境ワークショップの話題提供者(報告をお願いできる方)を募集しております。
また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外に
どのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップに対す
るご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。(連絡先はこの頁に掲載)

- ★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。
- ★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願い致します。

関西ECOMAIL 第16号 1993年7月1日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学環境科学教育 鈴木研究室 気付

〒582 柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

電話 0729-76-3211(内線3127)

次回 第17号 1993年9月1日発行予定 原稿締め切り 93年8月10日